



独立行政法人水資源機構筑後川局と連携・協力に関する協定を締結

【概要】

令和6年2月26日（月）に「国立大学法人佐賀大学理工学部と独立行政法人水資源機構筑後川局との連携・協力に関する協定署名式」が行われました。理工学部の教育及び研究成果と独立行政法人水資源機構筑後川局の水資源開発施設等の運営管理に係る技術の連携により、水資源管理に貢献できる人材育成や技術の発展が期待されます。

【本文】

理工学部と独立行政法人水資源機構筑後川局（以下、水資源機構）は、長年、連携・協力を行ってきています。水資源機構が実施している「筑後大堰関連環境調査連絡協議会」をはじめ各種委員会委員として理工学部の教員（古賀憲一名誉教授、他）が25年以上前から参画し、ダム等の水資源開発施設の建設・管理事業に対する専門的な見地から技術的なアドバイスをを行っている他、理工学部都市工学部門が実施する授業の一環としての水資源機構の施設見学や、同部門の教員と学生が実施している研究に対してデータを提供していただく等、個人及び部門レベルで様々な連携・協力を行ってきました。

こうした連携・協力をより発展させ、理工学部が有する教育及び研究の成果と水資源機構筑後川局が有する水資源開発施設等の運営管理に係る施策について、より緊密かつ組織的な連携・協力体制の強化を図り、水資源管理に関する技術の発展や技術者の人材育成に寄与することを目的に、両者間で協定を結ぶことになりました。

協定署名式は令和6年2月26日（月）に佐賀大学産学交流プラザにて開かれ、理工学部より佐藤 和也 学部長と水資源機構 平山 周作 筑後川局長が協定書に署名しました。理工学部の関係者として、副学部長の小島 昌一 教授、学部長補佐の福田 修 教授、都市工学部門長の日野 剛徳 教授、都市工学部門のウォンタナーストーン・ナルモン 准教授、水資源機構筑後川局の関係者として次長の平野 明德 氏、施設管理課長の武田 久和 氏、調整役の宮本和樹 氏、施設管理課主任の梅崎 健史 氏が出席しました。

連携・協力する事項としては、水資源管理に関する研究活動及び技術開発に関すること、水資源開発施設等の建設・管理に関すること、技術者の人材育成に関すること、その他両者が必要と認める事項が挙げられています。

今後は、理工学部の学生に対する現地研修会やインターンシップの受け入れ等をはじめ、筑後川流域の水環境に関する研究を継続的に実施している都市工学部門のナルモン准教授による受託研究が実施される予定です。

参考：

NHK 佐賀 NEWS WEB「佐賀大と水資源機構が連携協定 筑後川流域の観測データを共有」

<https://www3.nhk.or.jp/news/saga/20240226/5080016607.html>



協定署名式の記念写真